



## マネージド ファイル転送の管理

- [マネージド ファイル転送の管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [マネージド ファイル転送の管理の要件 \(2 ページ\)](#)
- [マネージド ファイル転送管理のタスク フロー \(2 ページ\)](#)

## マネージド ファイル転送の管理の概要

IM and Presence Service の管理者は、マネージド ファイル転送機能のファイルの保管およびディスク利用の管理を担当します。この章では、ファイルストレージおよびディスク使用量のレベルを監視し、レベルが指定されたしきい値を超えた際に通知するためのカウンタと警告を設定します。

### 外部ファイル サーバおよびデータベース サーバの管理

外部データベースのサイズを管理する際は、指定に応じて、ファイルをデータベースから自動的にパージするように、クエリをシェルスクリプトと組み合わせることが可能です。クエリを作成するには、ファイル転送メタデータを使用します。これには、転送タイプ、ファイルタイプ、タイムスタンプ、ファイルサーバ上のファイルへの絶対パス、およびその他の情報が含まれます。

1 対 1 の IM やグループ チャットは通常、一時的なものであり、転送されたファイルはすぐに削除される可能性があります。IM やグループ チャットの処理方法を選択する際には、これを考慮に入れてください。ただし、次の点に注意してください。

- オフライン ユーザに配信される IM のために、ファイルに対する遅延要求が発生する可能性があります。
- 永続的なチャットの転送は、長期間保持される必要がある可能性があります。



- (注)
- 現在の UTC 時間中に作成されたファイルは消去しないでください。
  - ファイルサーバ構成を割り当てた後は、ファイルサーバ構成名は変更することができますが、ファイルサーバ自体の変更はできません。
  - マネージドファイル転送がすでに設定済みで、その設定を変更した場合、Cisco XCP Router サービスを再起動すると、マネージドファイル転送機能が再起動します。
  - ファイルサーバ自体で設定を変更せずに設定を変更した場合、ファイル転送が機能なくなり、Cisco XCP Router サービスを再起動するように促す通知が送信されます。
  - データベースまたはファイルサーバに障害が発生した場合、その障害を明記するメッセージが生成されます。ただし、エラー応答では、データベースの障害、ファイルサーバの障害、その他の内部障害の内容は区別されません。データベースまたはファイルサーバに障害が発生した場合も、Real-Time Monitoring Tool がアラームを生成します。この警告は、ファイル転送が進行中であるかどうかにかかわらず発せられます。

## マネージドファイル転送の管理の要件

マネージドファイル転送機能の設定

## マネージドファイル転送管理のタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	<a href="#">AFT_LOG テーブルの SQL クエリの出力例 (3 ページ)</a>	次の手順では、AFT_LOG テーブルで実行できるクエリの例と、その出力を使用してファイルサーバから不要なファイルを削除する方法を説明します。
<b>Step 2</b>	<a href="#">サービスパラメータのしきい値の設定 (5 ページ)</a>	マネージドファイル転送サービスパラメータを設定して、外部ファイルサーバのディスク領域に関する RTMT アラートが生成されるしきい値を定義します。
<b>Step 3</b>	<a href="#">XCP File Transfer Manager のアラームの設定 (5 ページ)</a>	定義されたしきい値に達したことを通知するように、マネージドファイル転送のアラームを設定します。
<b>Step 4</b>	<a href="#">マネージドファイル転送の外部データベースのクリーンアップ (8 ページ)</a>	オプション。外部データベースのクリーンアップユーティリティを使用して、外部

	コマンドまたはアクション	目的
		データベースを監視するジョブを設定し、期限切れのレコードは削除します。これで、常に最新のレコードのために十分なディスクスペースが確保されます。

## AFT\_LOG テーブルの SQL クエリの出力例

次の手順では、AFT\_LOG テーブルで実行できるクエリの例と、その出力を使用してファイルサーバから不要なファイルを削除する方法を説明します。

このクエリは、指定された日付の後にアップロードされた各ファイルのレコードを返します。



(注) SQL コマンド例は、[外部データベースのディスク使用量 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

### 手順

**Step 1** 外部データベースで、次のコマンドを入力します。

```
SELECT file_path
FROM aft_log
WHERE method='Post' AND timestampvalue > '2014-12-18 11:58:39';
```

このコマンドを実行すると、以下の出力が生成されます。

```
/opt/mftFileStore/node_1/files/im/20140811/15/file_name1
/opt/mftFileStore/node_1/files/im/20140811/15/file_name2
/opt/mftFileStore/node_1/files/im/20140811/15/file_name3
/opt/mftFileStore/node_1/files/im/20140811/15/file_name4
...
/opt/mftFileStore/node_1/files/im/20140811/15/file_name99
/opt/mftFileStore/node_1/files/im/20140811/15/file_name100
```

**Step 2** rm コマンドとこの出力を使用して、外部ファイルサーバからこれらのファイルを削除するスクリプトを作成します。SQL クエリ例は、*Cisco Unified Communications Manager*での *IM and Presence Service* データベース設定を参照してください。

- (注) ファイルに関連するレコードが外部データベースからすでに消去されていても、そのファイルが外部ファイルサーバからまだ消去されていなければ、そのファイルを引き続きアクセス/ダウンロードできます。

## 次のタスク

[サービスパラメータのしきい値の設定 \(5 ページ\)](#)

## 外部データベースのディスク使用量

ディスクやテーブルスペースが満杯にならないようにする必要があります。満杯になると、マネージドファイル転送機能が動作を停止することがあります。以下は、外部データベースからレコードを消去するために使用できる SQL コマンド例です。その他のクエリは、*Cisco Unified Communications Manager*での *IM and Presence Service* データベース設定を参照してください。



- (注) ファイルに関連するレコードが外部データベースからすでに消去されていても、そのファイルが外部ファイルサーバからまだ消去されていなければ、そのファイルを引き続きアクセス/ダウンロードできます。

アクション	コマンド例
アップロードされたファイルのすべてのレコードの削除。	<pre>DELETE FROM aft_log WHERE method = 'Post';</pre>
特定のユーザによってダウンロードされたすべてのファイルの削除。	<pre>DELETE FROM aft_log WHERE jid LIKE '&lt;userid&gt;@&lt;domain&gt;%' AND method = 'Get';</pre>
特定の時刻の後にアップロードされたすべてのファイルのレコードの削除。	<pre>DELETE FROM aft_log WHERE method = 'Post' AND timestampvalue &gt; '2014-12-18 11:58:39';</pre>

さらに、データベースのディスク使用量の管理に便利なカウンタおよび警告があります。詳細については、「[マネージドファイル転送のアラームおよびカウンター \(6 ページ\)](#)」を参照してください。

## サービスパラメータのしきい値の設定

マネージドファイル転送サービスパラメータを設定して、外部ファイルサーバのディスク領域に関する RTMT アラートが生成されるしきい値を定義します。

### 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration で、**システム > サービスパラメータ**を選択します。
- Step 2** ノードの [Cisco XCP File Transfer Manager] サービスを選択します。
- Step 3** 次のサービスパラメータの値を入力します。
- **外部ファイルサーバの使用可能領域の下限しきい値**：外部ファイルサーバパーティションで使用可能な領域の割合（％）がこの値以下になると、XcpMFTExtFsFreeSpaceWarn アラームが生成されます。デフォルト値は 10% です。
  - **外部ファイルサーバの使用可能領域の上限しきい値**：外部ファイルサーバパーティションで使用可能な領域の割合（％）がこの値以上になると、XcpMFTExtFsFreeSpaceWarn アラームが解除されます。デフォルト値は 15% です。
- (注) 下限しきい値を上限しきい値より大きい値に設定しないでください。それ以外の場合、cisco xcp Router サービスを再起動しても、Cisco XCP File Transfer Manager サービスは開始されません。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** Cisco XCP Router サービスを再起動します。
- a) [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
  - b) サーバド롭ダウンから IM and Presence パブリッシャを選択し、**移動**をクリックします。
  - c) **IM and Presence Services**の下で、**Cisco XCP Router**を選択して、**再起動**をクリックします。

### 次のタスク

[XCP File Transfer Manager のアラームの設定 \(5 ページ\)](#)

## XCP File Transfer Manager のアラームの設定

定義されたしきい値に達したことを通知するように、マネージドファイル転送のアラームを設定します。

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified IM and Presence Serviceabilityにログインします。
  - Step 2** [Alarm (アラーム)] > [Configuration (設定)] を選択します。
  - Step 3** サーバドロップダウンで、サーバ(ノード)を選択して、**移動**をクリックします。
  - Step 4** サービスグループドロップダウンリストで、**IM and Presence Services**を選択して、**移動**をクリックします。
  - Step 5** サービスドロップダウンリストから、**Cisco XCP File Transfer Manager (アクティブ)**を選択して、**移動**を選択します。
  - Step 6** 必要に応じて優先アラーム設定を行います。フィールドとその設定を含むヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
  - Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## 次のタスク

使用可能な警告およびカウンターの詳細は、以下を参照してください。[マネージドファイル転送のアラームおよびカウンター \(6 ページ\)](#)

## マネージドファイル転送のアラームおよびカウンター

マネージドファイル転送を使用すると、転送されたファイルは、外部ファイルサーバにアーカイブされた後、そして、ファイルメタデータが外部データベースに記録された後にのみ、ユーザに配信されます。IM and Presence Service ノードが外部ファイルサーバまたは外部データベースとの接続を失った場合、IM and Presence Service は受信者にファイルを配信しません。

### マネージドファイル転送のアラーム

接続が失われた場合に必ず通知されるようにするには、Real-Time Monitoring Tool で以下のアラームが正しく設定されていることを確認します。



- 
- (注) 外部ファイルサーバへの接続が失われる前にアップロードされたファイル、およびダウンロード中であったファイルは、受信者へのダウンロードに失敗することになります。ただし、失敗した転送のレコードが外部データベースに残ります。これらのファイルを特定するには、外部データベース フィールド file\_size と bytes\_transferred の不一致を調べることができます。
-

表 1: マネージドファイル転送のアラーム

アラーム	問題	ソリューション
XcpMFTEExtFsMountError	Cisco XCP File Transfer Manager で外部ファイルサーバとの接続が失われました。	External File Server Troubleshooter で詳細を確認してください。 外部ファイルサーバが正常に動作していることを確認します。 外部ファイルサーバとのネットワーク接続に問題があるかどうか確認します。
XcpMFTEExtFsFreeSpaceWarn	Cisco XCP File Transfer Manager は、外部ファイルサーバの空きディスク領域が少ないことを検出しました。	ファイル転送に使われるパーティションから不要なファイルを削除して、外部ファイルサーバの領域を解放します。
XcpMFTDBConnectError	Cisco XCP データアクセスレイヤがデータベースに接続できませんでした。	システム トラブルシュータで詳細を確認してください。 外部データベースが正常に動作していること、および外部データベースサーバとのネットワーク接続に問題があるかどうか確認します。
XcpMFTDBFullError	ディスクまたはテーブルスペースがいっぱいになっているため、Cisco XCP File Transfer Manager は外部データベースにデータを挿入または変更できません。	データベースを確認し、ディスク領域を解放または回復できるかどうかを評価します。 データベースのキャパシティを追加することを検討してください。

### マネージドファイル転送のカウンター

マネージドファイル転送を管理しやすくするために、Real-Time Monitoring Tool を介して以下のカウンタを監視することができます。これらのカウンタは、Cisco XCP MFT カウンタ フォルダに保存されます。

表 2: マネージドファイル転送のカウンター

カウンタ	説明
MFTBytesDownloadedLastTimeslice	このカウンタは、最後のレポートインターバル（通常は 60 秒）の間にダウンロードされたバイト数を表します。
MFTBytesUpoadedLastTimeslice	このカウンタは、最後のレポートインターバル（通常は 60 秒）の間にアップロードされたバイト数を表します。

カウンタ	説明
MFTFilesDownloaded	このカウンタは、ダウンロードされたファイルの総数を表します。
MFTFilesDownloadedLastTimeslice	このカウンタは、最後のレポートインターバル（通常は60秒）の間にダウンロードされたファイル数を表します。
MFTFilesUploaded	このカウンタは、アップロードされたファイルの総数を表します。
MFTFilesUploadedLastTimeslice	このカウンタは、最後のレポートインターバル（通常は60秒）の間にアップロードされたファイル数を表します。

## マネージドファイル転送の外部データベースのクリーンアップ

外部データベースを監視し、期限切れのレコードを削除するジョブを設定します。これで、常に最新のレコードのために十分なディスクスペースが確保されます。

マネージドファイル転送のデータベーステーブルをクリーンアップするには、機能テーブルの下の **非同期ファイル転送** 機能が選択されていることを確認します。

### 手順

- 
- Step 1** データベースパブリッシャノードで Cisco Unified CM IM and Presence Administration にログインします。
- Step 2** メッセージング > 外部データベースの設定 > 外部データベース を選択します。
- Step 3** 外部 DB のクリアをクリックします。
- Step 4** 次のいずれかを実行します。
- パブリッシャノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップするには、**samecup** ノードを選択します。
  - サブスライバノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップする場合は、**その他の CupNode** を選択してから、外部データベースの詳細を選択します。
  - 外部データベースを自動的にモニタおよびクリーンアップするシステム設定の場合は、**自動クリーンアップ** オプション ボタンをオンにします。
- (注) 自動クリーンアップを設定する前に、手動でのクリーンアップを実行することを推奨します。
- Step 5** いつまでさかのぼってファイル削除をするかの **日数** を設定します。たとえば、90 を入力した場合、システムは 90 日前以前の古いレコードを削除します。
- Step 6** データベースのインデックスとストアドプロシージャを作成するには、**スキーマの更新** をクリックします。



(注) スキーマの更新は、このジョブを最初に実行するときのみです。

**Step 7** いつまでさかのぼってファイル削除をするかの**日数**を設定します。たとえば、**90**を入力した場合、システムは**90**日より前の古いレコードを削除します。

**Step 8** **機能テーブル** セクションで、レコードをクリーンアップする各機能を選択します。

- **テキスト会議**: 常設チャット機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。
- **メッセージアーカイバ (MA)**: メッセージアーカイバ機能のデータベーステーブルをクリーンアップするには、このオプションを選択します。
- **非同期ファイル転送 (AFT)**: マネージドファイル転送機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。

**Step 9** [クリーンアップジョブを送信 (Submit Clean-up Job)] をクリックします。

(注) **[自動 (Automatic)]** オプションが有効になっていて、それを無効にする場合は、**[自動クリーンアップジョブの無効化 (Disable Automatic Clean-up Job)]** ボタンをクリックします。

---



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。